ロボット開発特集 6面
RoboNext2026特集 7面

第469号
2026年（令和８年）
11月25日（水曜日発行）
年間購読料：無料
URL: http://www.automation-news.jp/

オートメーション新聞

-ものづくりを応援する専門紙- Automation News
発行所：©ものづくり.jp株式会社 〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-101-1 クロスゲート7階 TEL：050-3503-9311

PHOENIX CONTACT
Empowering the All Electric Society

三菱電機

AI活用と自律化の世界紹介
11月18、19日 プライベート展

三菱電機は、新ソリューションブランド「Serendie Automation」の発表に合わせ、11月18、19日には、顧客とパートナーなどを招いたお披露目会、プライベート展示会「Serendie Days」を東京・八重洲で開催した。

展示エリアは、メインゾーンと4つの展示ゾーンに分かれ、メインゾーンでは、自律化した先の未来の製造現場や工程、そのデータ基盤を構築する先進技術の展示を実施。ヒューマノイドロボットなどフィジカルAIを使った物流や加工現場の作業支援のデモや人手作業の工程に対する省力化・無人化に向けたデータ化やAI活用ソリューションをはじめ、ロボットの精密な動きを自律的に補正するRaaS、工場内のデータの統合と意味付けを行い、最適な判断を行うAI技術など、自律運営に必要な先進技術を紹介した。





4つの展示ゾーンは、ゾーン1から順に、今ある設備にすぐに導入してDXをスタートできる技術紹介にはじまり、パートナーと共創して提供できる技術、AIによって装置設計から製造、保守・保全の業務を効率化する技術、これらの導入サポートサービスと展開。

ゾーン1「デジタル接続・基盤構築エリア」では、AIを活用した高度な自動化・自律化を支える基盤となる技術、具体的にはCC-Link IE TSNによる安全通信の無線化とOTセキュリティ、AIカメラとロボットによる自動外観検査、既存設備に後付けしてトラブルを記録できるレコーダシステムなどを展示。

ゾーン2は「共創エリア」とし、共創パートナーの技術によって、三菱電機だけではできない価値の実現を紹介。OPC UAによる柔軟な設備連携の実現や、位置決め装置がなくても自ら位置ズレを補正するアプリケーションや外部ソフトとつながり拡張性を高めるロボットプラットフォームなどを提案した。

ゾーン3「AIで判断・最適化・改善エリア」では、装置に関わる設計、製造、保守・保全業務について、AIやデータを使って業務効率化を実現する最新技術を紹介。3Dシミュレーションや生成AIによる制御プログラムの自動生成とコード解説、図面やマニュアル、各種資料など過去の各種データを参照した設備の草案の自動作成など装置設計の支援技術をはじめ、SCADAによる稼働データの集約と可視化、スマート保全サービスによる予備品の在庫管理やトラブル対応支援など、単なる回答ではなく、支援システムとしてのAIサービスを展示した。

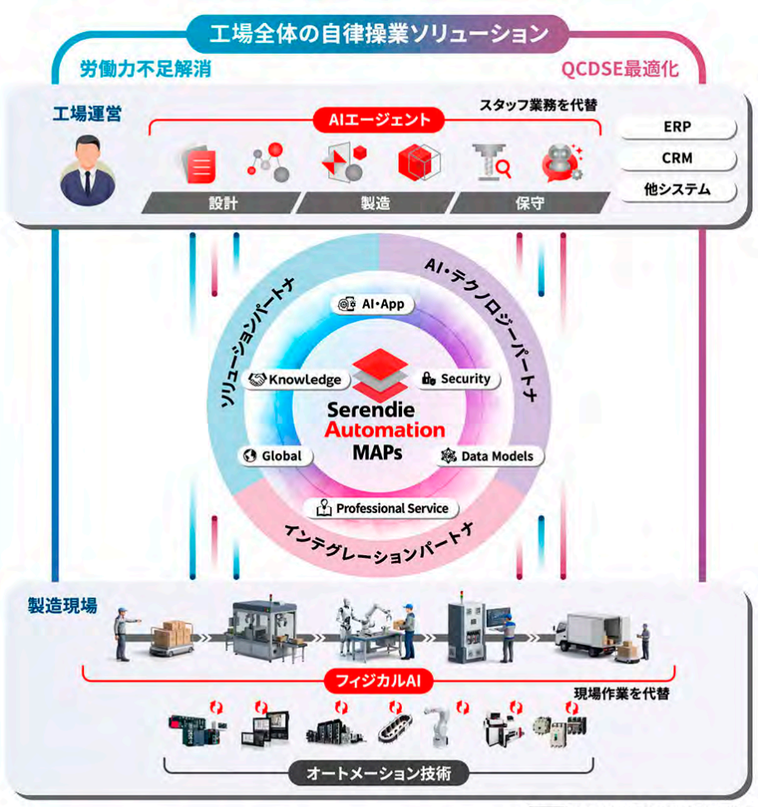
ゾーン4は「導入サポートエリア」とし、AIの導入から自律化実現への道筋を考え、検証を支援し、導入・運用支援まで一緒に伴走するサポートの仕組みを紹介。全国各地の同社の製作所・工場で現場を経験し、技術を身につけた社員がコンサルタントとなり、現場と経営の両方が納得して動き、成果を出すための伴走支援を提供するという。

また両日は基調講演・特別講演が行われ、都築貴之 上席執行役員 FAシステム事業本部長による「現場と人とAIが、共に進化するSerendie Automationで価値を提供し続ける、ものづくりの共創」をはじめ、フィジカルAIがもたらすものづくり変革、未来の工場、無人化工場、AIで加速する企業変革などをテーマにした講演も行われた。

三菱電機 FAシステム事業のソリューションブランド刷新

「Serendie Automation」スタート

e-F@ctoryを進化
自律化から自律化の支援へ



三菱電機は、FAシステム事業のソリューションブランドを一新し、「Serendie Automation」とすることを発表した。これまでの「e-F@ctory」の成果と実績を土台としながら、そこに新たな技術であるAIを加え、顧客の現場、装置の自動化から自律化への進化を支援し、さらに顧客・パートナーを含めた、より大きな共創のエコシステムの構築を進める。

Serendie Automationは、「AIと制御技術を繋ぎ合わせ、製造業の経営課題を解決する自律操業ソリューション」とされ、オートメーション技術による現場の自動化、AIエージェントによる机上業務の代替、フィジカルAIによる現場作業の代替を提供し、自律的に経営課題を解決できる現場革新を進めていく。

Serendie Automationを進める上でポイントとなる技術が「AIエージェント」と「フィジカルAI」「Serendie Automation MAPs（SA MAPs）」だ。

1つ目の「AIエージェント」について、未来の工場では、経営と現場の各部門、さらには設計のPLMやシミュレータ、エンジニアリングツール、製造の生産管理やMES、保全の予知保全や予備品管理といった各業務システムにもAIエージェントが組み込まれ、それらが連動して動く。これにより 膨大なデータから導き出した最適解が人に提案され、先手を打ったプロアクティブな工場運営が可能になる。この経営と現場の各AIエージェントがリアルタイムに連携してボトルネックを解消し、その結果と知見をデータ基盤に蓄積することで工場は賢くなり、自律化へと進んでいくとしている。

同社ではそれを支援するための各業務システムとAIエージェントの開発を進めており、例えば設計業務向けでは、MELSOFT Copilotで動作フローからタイムチャートを作成し、そこからラダープログラムを自動生成し、MELSOFT Mirrorで制御ロジックを検証し、MELSOFT Geminiで動作と干渉確認などをシミュレーションし、実機レスで高精度の設計から検証ができる仕組みを構築している。またスマート保全サービスなど、そのほかのデジタルツールも拡充している。

2つ目のフィジカルAIは、単に人の代替に向けてヒューマノイドなどを導入するというのではなく、画像やセンサから得た情報から最適動作を生成して、変化に対応して動くフィジカルAIと、定型作業を手順通りに進める従来通りのモデルベース制御による生産設備、そして安全操業を守るためにAIとは独立した安全制御、この3つを適材適所で組み合わせ、安心して使える自律化を進めていく。また、これまで自動化できなかった作業もフィジカルAIで代替することで省人化、無人化を進め、フィジカルAIを通じて多くのデータを収集し、工場を賢くしていくとしている。

3つ目は、人と装置とAIをデータでつなぐ基盤となる「Serendie Automation MAPs（SA MAPs）」。これまでバラバラに存在し、狭い範囲での活用にとどまっていた設計や製造など各工程、経営や現場など各層のデータについて、SA MAPsに集め、それぞれに意味付けして整理し、作業者MAP、工程MAP、需要／供給MAP、アセットMAPのように活用できるようにする。これによりAIエージェントはより精度が高い提案が可能になり、現場への指示精度が上がり、フィジカルAIが現場で効率的に動けるようになる。そしてその結果がSA MAPsに再び集められ統合されることで賢くなり、自律化していくというサイクルが出来上がっていくとしている。

SA MAPsは、ユーザーが自身でデータを活用する基盤としてだけでなく、そこでAIやアプリが提供され、ユーザーとベンダーが共創できる場としての機能も提供される。SA MAPsは、2027年春の提供を目指して準備を進めているという。

またSerendie Automationのスタートに伴い、パートナー制度も「Serendie Automation Partners」に27年春に一新される。パートナーには、機器やセンサ、AI、アプリを提供する「AI・テクノロジーパートナー」、経営と現場課題から成果に伴走する「ソリューションパートナー」、OT・ITをつなぎ、実装を担う「インテグレーションパートナー」を用意している。



【お知らせ】
次号のオートメーション新聞は、12月9日に発行いたします。
オートメーション新聞

芝浦東

売上高1兆9620億円
26年度上期決算 DC好調で過去最高

東芝は、2026年度上期の決算を発表し、売上高は前年同期比21・6%増の1兆9620億円、営業利益は同103・4%増の2347億円、純利益は同700・1%増の2兆5283億円の増収増益となった。

生成AIの普及に伴うデータセンター関連需要の取り込みや経営改革による収益性改善が寄与し、営業利益と純利益は上期として過去最高を更新した。

事業別では、エネルギーやデジタルインフラ、デバイス&テクノロジーなど全ての事業領域で増収増益を達成。送変電配電や発電設備、産業システム、データセンター向けHDDや半導体などが好調に推移したほか、売価施策や固定費比率の改善も利益を押し上げた。

また、純利益はキオクシアホールディングス関連の評価益や売却益が大幅に寄与した。

通期の業績予想数値は非開示だが、中期経営計画「東芝再興計画」に掲げる26年度の全社売上高営業利益率10%の目標は超過達成する見通し。27年度以降の成長に向け、エネルギーやデータセンター、フィジカルAI、防衛などの注力分野で収益力強化を加速させる。

灯台

潮流をつかめ　並べて見るから分かることがある

今週号（2026年11月25日号）は、意図したわけではないが、いまFA業界が大きな転換点にあることを象徴するような各社の最新情報がたくさん並んだ。五月雨で分散して発表されるより、こうして同じような時期にドバッと来てくれるとインパクトが強く、いろいろと気づくことがある▼どんな記事かというと、三菱電機のFA事業のe-F@ctoryに代わる新しいソリューションブランド「Serendie Automation」の発表をはじめ、キーエンスの生成AIを活用したPLC専用AIエージェント「KV Intelligence」、50周年を迎え、プラントの自律操業に対応した横河電機のDCS「CENTUM」、SDA（ソフトウエアディファインドオートメーション）に対応したロックウェルオートメーションのLogixコントローラなど。さらに先週号（11月18日号）には、オムロンの生成AIを活用した設計支援ソフトウエア「CX-One Agent」も掲載しており、偶然にしても出来過ぎだ▼世界のトップメーカーの動きを並べて見ると、それぞれにアプローチに違いはあるが、自動化から自律化、具体的な生成AI活用アプリケーションの登場など、進んでいる方向は似通っており、おぼろげながらFA業界の「潮流」が見えてくる。これはお気に入りの情報を見ているだけでは分からない。パーソナライズされて情報バブルになりやすいこの時代、生き残るためには幅広く情報を仕入れ、潮流をつかむことが大事だ。それと同時に、だからこそ幅広く並列で情報を提供できるメディアにも価値が生まれてくる。そんなことも気づかせてもらった。

azbil
Engineering the Impossible
人と社会の可能性を、
技術で解き放つ。
アズビル株式会社

Electronics Solutions Company
KANADEN
株式会社 カナデン

Push-
www.phoenixcontact.com/push-x
THE NEW WIRING EXPERIENCE
新しい接続体験を
端子台はPush-inからPush-Xへ進化を続けます
● 配線工数50%以上ダウン
● 現場の手間を大幅に削減
● 工具要らずで簡単・安全
● 自動配線にも最適
フエニックス・コンタクト株式会社
本　社 〒222-0033　横浜市港北区新横浜1-7-9
友泉新横浜一丁目ビル 6階
PHOENIX CONTACT

Machine Evolution Partner

Speedy. Simple. Suitable for All.

パナソニック インダストリーは「Machine Evolution Partner」というスローガンのもと、お客様と共に革新的な装置開発を進めるパートナーとして“Speedy、Simple、Suitable”を核としたソリューションをご提供することでお客様の課題解決に取り組んでまいります。

Speedy

装置パフォーマンスを向上する
高速・高精度な制御を提供



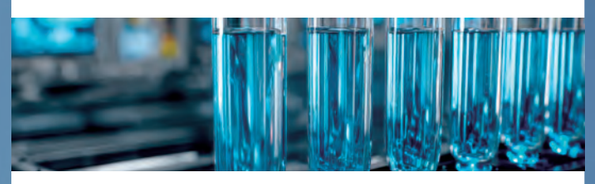

サーボモータ


モーションコントローラ

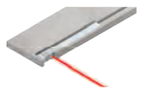

変位センサ

Simple

装置トータルコストを削減する
小型・簡単なデバイスを提供




光電センサ


ファイバセンサ


レーザ測距センサ

Suitable

装置リードタイムを短縮する
最適なシステムを提供




安全機器

イオナイザ


PLC

Pick Up Products

設計も施工・保守も。
限定反射という選択を
もっとシンプルに。



NEW

アンプ内蔵
限定反射型光電センサ
EX-M160 SERIES

キレのある限定性能
性能とコストパフォーマンスを両立。
小型光電センサの新たな選択肢

設計工数を削減
5～24V DC対応　5V対応、3つのヘッド形状、
NPN/PNP出力をラインアップ

施工性を向上
はんだレスコネクタで信頼性と施工性を向上

故障リスクを軽減
全機種に3つの保護回路を標準搭載

Panasonic INDUSTRY

パナソニック インダストリー株式会社
産業デバイス事業部
〒574-0044 大阪府大東市諸福7丁目1番1号

●技術に関するお問い合わせは
FAデバイス技術相談窓口
0120-394-205
※受付時間／9：00～17：00（12：00～13：00、弊社休業日を除く）
Webサイト industry.panasonic.com

盤製造の世界を変えるシステムプラットフォーム RITTAL
CONTEC e-shop 製品ラインアップ1,300点 工場の"今欲しい"が見つかる
PATLITE
信州から高品質な製品をお届けします TOGI 東洋技研株式会社
TURCK Your Global Automation Partner

新製品・サービス

横河電機　統合生産制御システム「CENTUM R7.02」

AI活用機能を標準搭載

プラント操業の自律化支援



横河電機は、統合生産制御システム「CENTUM」にAI活用機能を標準搭載した「CENTUM R7.02」を発売した＝写真。

同製品は、自律制御AIで生成したAI制御モデルを標準機能で実行できる「AI制御」に対応。プラントシミュレータで学習させた制御モデルの信頼性と妥当性を評価し、安全性を確保したうえでエンジニアリング環境から実装でき、オペレータは使い慣れたCENTUMの操作・監視環境で運転状態を監視できる。

温度や流量、圧力などのプロセスデータから、オンラインでの連続測定が難しい成分濃度や製品品質をリアルタイムに推定する「AI推定」機能を搭載。各プロセスデータが推定結果に与えた影響度も示し、オペレータの運転判断や品質の安定化を支援する。

また今回、製品名について、プラントの自律操業という新たな時代の幕開けに伴い、2000年代半ばから掲げていたビジネスコンセプト「Vigilance、VigilantPlant」に由来する「CENTUM VP」から「CENTUM」へ改称。世界100カ国で3万以上のシステム採用実績を持つ、CENTUMの基盤の信頼性を継承しながら、石油精製や化学、電力、医薬、食品など幅広い産業の、プラントにおける自律操業と効率化に貢献する。

オムロン
プログラマブルターミナル「NS－Bシリーズ」

画面資産や開発環境を継承



オムロンは、従来のプログラマブルターミナル「NSシリーズ」で培われた画面資産や開発環境を継承し、そのまま生かせる新機種「NS－Bシリーズ」を発売した＝写真。

熟練者の引退により過去のデータが引き継がれず、保全業務の負担増大や設備更新時の手間が増える中、同製品はNSシリーズで蓄積した画面データなどのプロジェクトデータをそのまま流用できるほか、使い慣れた作画ツール「CX－Designer」に対応。置き換え用パネルカットアタッチメントにより、パネルカットの追加工なしで既存設備へ簡単に取り付けも可能。新旧PLCとの接続にも対応し、設備更新時の再作画や再設計の工数を大幅に削減する。最大32個の動作を1つのボタンに集約できるマルチファンクション機能により、誤操作を防止するほか、最大128点データを500ms周期で収集するデータロググラフ機能や折れ線グラフ機能により設備状態を可視化。さらに、ユニコードに対応して42言語の混在表示と最大16種類の言語切り替えを可能とした。

操作履歴を記録する操作ログ機能や、パスワード保護による画面データセキュリティ機能を備え、設備停止時間の最小化と安全な運用を支える。

オムロン
PLC「CJ3Mシリーズ」

CPU交換だけで置き換え可能

オムロンは、既存設備のプログラムやI／Oユニットをそのまま活用し、リプレースやライン増設を効率的に行えるPLC「CJシリーズ CJ3M CPUユニット」とパルスI／Oブロックを発売した＝写真。



同製品は、従来機種「CJ2Mシリーズ」の命令語とメモリマップを継承し、CPUユニットを交換するだけでスムーズな置き換えが可能。CPUユニットの置き換えも、現行読み出し後に交換し、転送・確認するだけの簡単な手順で完了する。

また拡張データメモリを32Kワード×10バンク、プログラム容量は最大1000Kステップ、ユニット通信帯域は1万2000ppsと強化したほか、Modbus／TCPやソケット通信などのEthernet機能を拡充し、より大規模なシステムに対応できる。

トレースメモリは27倍に拡張し、デバッグ作業の効率を高める。

統合開発環境「CX－One」の入力アシスト機能やEtherNet／IPデータリンク設定の自動化により、経験の浅い技術者でも迷わず設計や立ち上げが可能。バックアップ用バッテリを不要とするバッテリレス設計を採用し、保守工数を削減した。

さらに、中国のGB規格を認証済みで、欧州のサイバーレジリエンス法への対応も予定する。USB Type－CやSDカードなどの標準インターフェースを備え、パルスI／Oブロックの装着により最大4軸の位置決め制御も実現する。

キーエンス
PLC専用AIエージェント「KV Intelligence」

デバッグやラダー作成支援

キーエンスは、プログラミングサポートソフト「KV STUDIO」から起動する、生成AI活用のPLC専用AIエージェント「KV Intelligence」を発売した＝写真。



対応機種はプログラマブルコントローラ「KV－Xシリーズ」の4モデルで、実機なしでも使用できる。

PLCに関わる現場では、「納期が短いのにバグをつぶしきれない」「問題の根本原因が分からない」「やりたい内容に沿ったラダー作成が大変」「初めて見るプログラムの解読が難しい」などの困りごとが多く、PLC技術者も不足気味で、特定の人に業務が偏って非効率になりやすいという課題がある。

それに対し同製品は、自然文で質問や指示をするだけでPLCの課題解決を支援する。

世界初の「ディープデバッグ」機能は、プログラム挙動やセンサ信号を比較解析し、微細な差分を検出して異常箇所と原因候補を優先度付けして提示する。ドライブレコーダ機能に記録された変数やイベント履歴まで専用AIで解析し、デバッグ工数を大幅に削減する。

「ラダー自動生成」機能は、文章の指示からラダーやST言語のプログラムを自動作成する。PLCマニュアルとセンサ接続ガイドを参照し、センサの挙動を踏まえた作成に対応する。

さらに「ビジュアル要約」機能により、システム構成や動作フローチャート、処理内容をHTML形式で出力し、見つけづらいバグの検出や改善案の提示も行う。経験の浅い担当者の対応支援と業務効率の向上に貢献する。

ロックウェル・オートメーション
SDA対応「LogixEdgeコントローラ」

産業用PCに制御とエッジ統合



ロックウェル・オートメーションは、産業用制御プラットフォーム「Logix Edgeコントローラ」を発売した＝写真。

システム構成の簡素化とSDA（ソフトウエア・デファインド・オートメーション）の加速を支援する。

同製品は、産業用PCベースのプラットフォームに、Logix制御とエッジコンピューティング、コンテナ化されたアプリケーションのサポートを統合。制御技術（OT）と情報技術（IT）を共通のプラットフォーム上で連携し、決定論的制御と最新のソフトウエアアプリケーションの同時稼働を実現する。これにより個別のハードウエアを削減し、オートメーションや可視化、デジタルアプリケーションを生産現場の近くへ柔軟に導入できる。

ソフトウエアの機能を専用ハードウエアから分離し、制御、分析、その他のアプリケーションを柔軟に導入、管理、更新できるようにするSDAをサポートするよう設計されており、コンテナ技術と最新のソフトウエア管理手法を活用することで、分散した拠点全体でソフトウエアの導入や更新、管理を一貫して実行可能となる。

導入時間の短縮とライフサイクル管理の簡素化を図り、柔軟なオートメーションインフラの構築と製造業の効率的な運用を可能とする。

NSKワーナー　位置保持用メカクラッチ
「トルクゲートクラッチ」

電力不要で電磁クラッチ代替



NSKワーナーは、電力不要で位置保持ができるメカクラッチ「トルクゲートクラッチ」を開発した＝写真。

ロボットや可搬ユニット等にはモータと共に電磁クラッチが使われ、位置決めをした後の位置保持には、通電してトルクをかけ続けるか、電流を切って電磁クラッチでロックをかけるかで行われる。しかしいずれの場合も電力を使い、設備の消費電力削減が求められるなかで課題とされていた。

それに対し同製品は、自動車で培ったクラッチ技術をFA・産業機械領域に応用し開発した、モーターに取り付けるメカ機構のクラッチ。電力を使わずにロックと解除ができ、電動スライダのモーターに電磁クラッチを搭載した時に比べて70％の消費電力を削減可能。また電磁クラッチに比べて25％の小型・省スペース化ができ、配線や設定の手間もなく、モーターに取り付けるだけで位置保持機能を実現できる。

産業用ロボットや可搬ユニットにおける電磁クラッチの代わりとしての位置保持機構のほか、バルブやアクチュエータ、昇降機構における台形ネジ・ウォームネジ機構代替としてのセルフロック機構、駆動ユニットにおけるアプリケーション側からの過大な負荷トルクを受け止める破損防止機構などに適用できる。

サイズは28角、42角、60角の3種類を用意し、2027年3月に28角タイプのサンプル提供を開始し、同年10月に量産を開始し、42角、60角もそれに続く見込み。30年に年間50万個の販売を目指す。

村田製作所　産業機器向け
6DoF慣性力センサ「SCH16T－K30」

強振動・急速回転時の信号飽和抑制



村田製作所は、産業機器向け6DoF慣性力センサ「SCH16T」シリーズの新機種として「SCH16T－K30」を発売した＝写真。

油圧ショベルなどの建設機械や測量機器では、稼働時の強い振動や急速な回転によって測定上限を超え、センサ出力が飽和して機器の動きを正しく捉えられない課題があった。

同製品は独自の3D MEMS技術により、200Hzを超える、周波数帯の不要な振動を減衰し、1000Hzで180gの高い飽和限界を備えた加速度センサを搭載した。また、角速度センサの測定範囲を従来製品の±300～490度／sへ拡大し、過酷な環境下でも安定した計測を実現する。

動作温度範囲は－40～110℃。車載向け集積回路の信頼性試験規格AEC－Q100グレード1を基にした試験条件で性能を検証している。さらに、シリーズ共通の自己診断機能を備えるほか、ソフトウエアとピン配置の互換性を持たせることで既存製品からの置き換えを容易にしている。

EPLAN
efficient engineering.


設計から製造まで
データがつながる
電気設計CAD EPLAN
EPLAN株式会社
横浜市港北区新横浜2-5-11
045-274-7904
www.eplanjapan.jp
PROZESSBERATUNG ENGINEERING-SOFTWARE IMPLEMENTIERUNG GLOBAL SUPPORT
FRIEDHELM LOH GROUP

HMS Hardware Meets Software™
富士電機 富士電機機器制御株式会社
Empower Connections - つながりに力を - WAGO
この技術が、世界を変える。この技術で、未来を変える。change the world. for the future. HOKUYO https://www.hokuyo-aut.co.jp/
ありがとう80 FUKUNISHI 80th Anniversary Fukunishi 福西電機株式会社 本社　大阪市北区与力町７番５号 コーポレートサイト https://www.fukunishi.com/

FA業界掲示板

業界トピックス記事一覧はこちら→https://www.automation-news.jp/category/topics/

■パナソニック インダストリー、半導体製造装置向けオンライン展示会サイトを公開

パナソニック インダストリーは、半導体製造装置の進化を支えるFAデバイス技術や製品、ソリューションを紹介するオンライン展示会の特設WEBサイト「Machine Evolution Expo」を公開した。

次世代半導体の微細化や高性能化に伴い、製造装置には高精度制御や高速処理、安全性確保、安定稼働などが求められるなか、サイトでは、半導体製造装置向けに特化したセンシング、モーション制御、機械安全に関する技術情報を発信し、装置の開発・設計担当者の課題解決を支援する。

サイト内は3エリアで構成し、機械安全やモーション制御の最新技術を解説する社員セミナーのほか、デモ動画や展示パネル、製造工程別のアプリケーション事例を紹介する半導体特設サイトへの案内などを掲載している。

■三菱電機、2027年4月からFA機器の価格改定　シーケンサ10～40%、ACサーボ20%など

三菱電機は、FA機器製品の標準価格を2027年4月受注分から改定する。三相モータは先行して27年2月受注分から引き上げる。改定前の受注分でも、要求納期が27年10月（三相モータは27年8月）を超える場合は新価格を適用する。

主な改定率は、シーケンサ10～40%、表示器15～30%、ACサーボ・配電制御機器・省エネ機器10～20%、インバータ20%、ロボット20～25%、三相モータ20～30%、ギヤードモータ30%、産業扇25～50%となる。部品も同様に改定し、マニュアルやソフトウエアは対象外とする。

■三菱電機、FA機器の採用事例「岩塚製菓 沢下条工場編」公開　リニアトラックシステム採用

三菱電機は、米菓メーカーの岩塚製菓沢下条工場におけるリニアトラックシステム「MTR-Sシリーズ」の採用事例を公開した。主力商品の一つ「味しらべ」の包装ラインに導入し、作業の属人化解消や省人化を実現した。

MTR-Sシリーズは、モジュールを組み合わせて柔軟なレイアウトを構築でき、搬送キャリアを個別に制御できるのが特長。同工場ではこの機能を生かし、生産ラインからランダムに流れてくる煎餅を生産スピードを落とすことなく2枚ずつ個包装する工程の完全自動化を達成した。

さらに、カメラ画像を活用して商品を1枚ずつ検査できる体制も構築し、全数検査を実現。段取り替え不要で変種変量生産にも対応できるシステムにより、生産性向上と品質管理の両立に貢献している。



■オムロン、制御機器の一部商品の概算納期情報を更新

オムロンは、納期が長くなっている一部の制御機器商品について、新規発注時の概算納期情報を更新した。圧力センサや光電センサ、近接センサ、温調器、リレー、PLC、サーボモータ・ドライバ、ネットワーク機器など多岐に渡っており、納期は商品や形式によって異なるが、最長のもので6.0カ月以上となっている。

また、形式仕様によっては即納できる場合もあり、最新の在庫状況は公式WEBサイトの「在庫状況/標準価格 照会」から確認できる。

■安川電機、広報誌「YASKAWA NEWS No.356」発刊 フィジカルAIを特集

安川電機は、広報誌「YASKAWA NEWS No.356」を発刊した。特集は「世界最先端の技術との連携を深め多様なフィジカルAI市場へ挑戦する」としてフィジカルAIへの取り組みを紹介。新製品では、人協働ロボット「MOTOMAN-HC12」や新型7軸大型塗装ロボット「MOTOMAN-PA3050HB」、「MPX1000シリーズ」、機能安全通信オプションカードを解説。このほか、最新のモーション制御の進化を伝えるトピックスや「2026国際ウエルディングショー」のレポート、人協働ロボットによる省人化の事例紹介、連載コラムなどを掲載している。

■横河電機、ブラジルの鉄鉱石生産会社から制御・安全計装システム受注　5万点の入出力

横河電機は、ブラジル子会社のヨコガワ・アメリカ・ド・スルが、同国の鉄鉱石生産会社Samarcoから分散形制御システム（DCS）、安全計装システム（SIS）、フィールド機器などを受注した。

納入先はジェルマーノ鉱山とウブの鉄鉱石ペレット生産施設で、既設制御システムの一部を更新する。新システムは物理信号と通信信号を合わせて5万点以上の入出力（I/O）ポイントで構成され、Ethernet-APLやPROFINET S2、PROFIsafeなどの最新通信プロトコルを活用する。

鉱石処理からペレット製造までの幅広いプロセスをカバーし、約400km離れた両拠点の操業を統合的に制御・監視する機能を強化する。

■JR東日本と日立製作所、国内鉄道事業者初のフルデジタル変電所システムを運用開始

JR東日本と日立製作所は、共同開発したフルデジタル変電所システムを小岩交流変電所に導入し、2026年11月に2万2000V受変電設備で一部運用を開始した。国際規格IEC 61850を適用した同システムを営業線の電力供給設備として運用するのは国内鉄道事業者で初となる。

同システムは、現場機器の情報をデジタル化して光ファイバーで伝送し、従来分散していた保護・制御機能を集約型保護制御システムに統合。伝送路と機能の二重化で電力の安定供給を支えるほか、制御ケーブルを従来比約80%削減、盤の設置面積を約60%縮小し、設備の搬入・据付期間を約50%短縮した。

残りの6万6000V受変電設備は2028年度に運用開始予定。日立製作所は直流電化区間向けの開発も進めている。

■リタール、「Data Center World Asia 2026」レポート公開　データセンター最新事情

リタールは、同社ブログでシンガポールで開催された展示会「Data Center World Asia 2026」の参加レポートを公開した。

レポートでは、サーバーを液体で直接冷却するDLC（Direct Liquid Cooling）が本格導入期に入り、導入後の運用や電源の最適化へと関心が移っていると分析。CPUやGPUなどを柔軟に組み合わせられるモジュラー型基盤「NVIDIA MGX」の概要や従来ラックとの違いも解説している。

併せて、最大1400kgの動的荷重やDLCに対応したNVIDIA MGX向けラック、設計・組立工数を削減し次世代800V直流給電にも対応するバスバーシステム「RiLineX」など、インフラ全体を最適化する同社ブースでの展示内容を紹介している。

■北陽電機、「まんがで分かる制御機器」season5第8話「面積閾値って？」を公開

北陽電機は、制御機器の知識を漫画で学べるコンテンツ「まんがで分かる制御機器」のseason5第8話「面積閾値って？？」を公開した。

前回は特定の部分だけを見たいというイケタニに、「飛び地機能」について紹介。今回はホコリ等による誤検知を減らしたり、小さな面積のものを検知したくない際に使える「面積閾値」を取り上げている。

次回は雨の中でセンサを使用したいときに便利な「時間フィルタ」を紹介予定。ぼやきながら去っていくレイコに意味ありげな視線を向けるワカイ。何か思うところがあるのか。

■フエニックス・コンタクト、「脱炭素チャレンジカップ2027」に協賛

フエニックス・コンタクトは、CO_2排出量ゼロを目的とした地球温暖化防止のための優れた活動を表彰する全国大会「脱炭素チャレンジカップ2027」に協賛する。

同大会は、学校や団体、企業、自治体など多様な主体が展開する地域社会のサステナブルな社会づくり活動を対象に、10年以上継続されているアワードイベント。表彰式は2027年2月に開催される予定。

イベント・セミナー

■リンクス、WEBセミナー HALCON最新版の機能と事例解説　11月28日まで

リンクスは、画像処理ライブラリの最新版「HALCON 26.11」のリリースに合わせ、最新機能や現場での導入ノウハウを解説するWEBセミナー「HALCON Evolution Week 2026」を開催している。11月28日まで

プログラムは2部構成で展開し、第1部ではHALCON 26.11の新機能解説に加え、デンソーや前川製作所、カワダロボティクスなどによるモータ検査やヒューマノイドロボットでのユーザー活用事例を紹介する。第2部では、次世代統合開発プラットフォーム「HDevelopEVO」の操作テクニックや、ツールを活用したAI画像処理開発のアプローチ、ノーコード画像処理ツール「MERLIC」の実践デモを実施する。

■東芝、12月18日WEBセミナー AIエージェントは製造現場をどう変える？

東芝は、12月18日にオンラインで技術セミナー「AIエージェントは製造現場をどう変える？ ～現場の『経験則』を宿したAIが『カイゼン』を提案～」を開催する。

製造現場のノウハウや経験則を組み込んだAIエージェントによる業務効率化や工程改善について解説。講演では、データや現場知識をAIが活用できる形に整える「AI-Ready化」の考え方をはじめ、SMTライン向けAIリコメンドサービスの実践例、生成AIでデータ分析と現場知識をつなぎ意思決定を支援するデータ分析エージェント技術を紹介する。

提携・M&A

■三菱電機、パウダクラッチ・パウダブレーキ事業をシンフォニアテクノロジーに譲渡

三菱電機は、パウダクラッチ・パウダブレーキ事業をシンフォニアテクノロジーに譲渡することで合意した。譲渡完了予定は2027年4月。

三菱電機がFAデジタルソリューションやシーケンサ、サーボなどのコア事業へ経営資源を集中する一方、シンフォニアテクノロジーは電磁クラッチ・ブレーキなどモーション機器を用いたFAシステム事業の強化を図っており、両社の方針が一致した。

譲渡対象はZKB、ZKG、ZA、ZXの各シリーズで、完了後はシンフォニアテクノロジーが自社ブランドで開発、製造、販売を担う。なお、三菱電機のテンションコントローラ・張力検出器事業は譲渡対象外として継続し、両社は今後も張力制御ソリューションで協力する。

■デルタ電子とローム、AIデータセンター向け高電圧直流給電の実装で協業

デルタ電子とロームは、AIデータセンターの電力課題解決に向け、高電圧直流給電（800VDC）ソリューションの社会実装に関する基本合意を締結した。併せて、ロームの製造拠点における脱炭素化・エネルギーマネジメント推進の協業でも合意した。

生成AIの普及に伴いサーバーラックの消費電力が急増する中、電力損失や発熱を抑える800VDCの導入が求められており、両社は、デルタ電子の高効率電源ソリューションと、ロームのSiCやGaNなどのパワーデバイス・電源制御IC技術を組み合わせ、システム要件の共同整理や顧客への共同提案を進め、日本市場での普及と市場形成を図る。

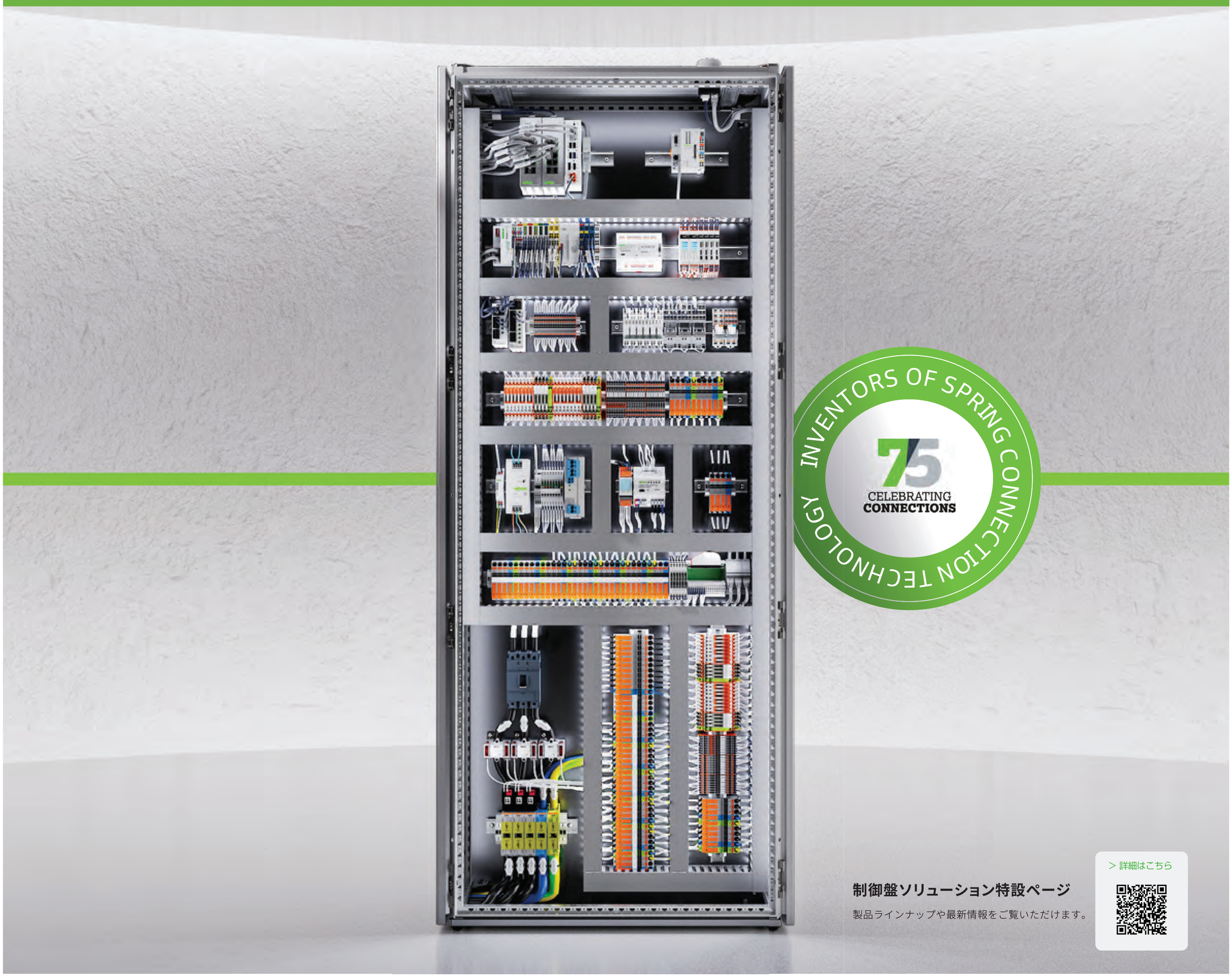
さらに、デルタ電子の省エネ・脱炭素化の知見とESGコンサルティングを活用し、ローム製造拠点のエネルギー利用最適化も検討する。

振動試験・受託振動試験・振動計測のリーディングカンパニーが提案
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
予知・予兆保全を結果につなげる
生産設備に標準装備して付加価値をプラス！　オンラインメンテナンスのトリガーに！
振動診断ユニット VD-unit
詳細はこちら 漫画でわかるVD-unitの魅力 詳細ページで公開中！
https://we-are-imv.com/products-fa-system-vd-unit/
振動をもっと身近に
振動の変化でアクションにつなげる
ティーチング機能で しきい値を自動で設定
PLCとの連携で 最大限の機能を発揮
簡単設置！ ポン付けしやすい 工夫が充実


IMV株式会社 SECURE THE FUTURE
〒555-0011 大阪市西淀川区竹島 2-6-10
https://we-are-imv.com/
info-yochi-hozen@imv-corp.com
06-6471-3155
VD-unit のお問い合わせはお近くの三菱電機 正規代理店・特約店でも承ります

WAGO

制御盤ソリューション

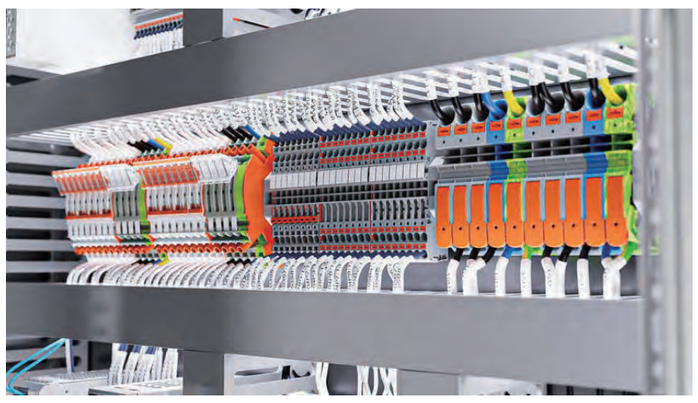


制御盤ソリューション特設ページ

製品ラインナップや最新情報をご覧いただけます。

＞詳細はこちら

接続をシンプルに



効率的な電源



Smart Marking



正確なスイッチングと保護



効率的な制御、シームレスな統合



Smart Designer



ロボット開発特集　主要各社の製品紹介

PILZ（ピルツジャパン）

ロボットの衝突データ測定セット「PRMS」

人とロボット協働アプリの安全検証



PILZ（ピルツジャパン）の衝突測定セット「PRMS」は、人と一緒に作業する、人と同じ空間で作業をする、人とロボットが協働（HRC）するアプリケーション開発において安全性の検証に必要な機器がひと通りそろったキット。

安全柵なしで人とロボットが作業空間を共有する環境では、技術仕様書ISO10218-2:2025に準拠した安全要件の達成が求められる。同製品は、潜在的な衝突発生時に生じる力と圧力を測定し、定義された制限値以内であるかの妥当性確認を行うことができる。ISO/PAS 5672の手法を使用した測定に準拠している。

力測定装置には、人体にかかる力を計測するセンサと9種類のスプリングを搭載。定数の異なるスプリングを使い分けることで、さまざまな人体部位の特性を再現。局部圧力の測定には圧力表示フィルムを使用し、付属のスキャナで評価して規格の限界値と比較し、ロボットの安全性を検証することができる。さらに、専用ソフトウエアにより測定データのデジタル化や視覚化、テストレポートも容易に作成できる。

同社では、製品トレーニングや定期的なキャリブレーション、ソフトウエア更新を含む包括的なアフターサービスパッケージを提供し、安全なロボット環境の構築を支援する。

https://www.pilz.com/ja-JP/products/robotics/prms/prms

三菱電機

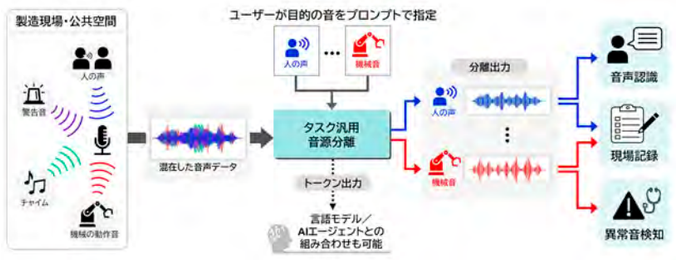
タスク汎用音源分離技術（TUSS）

多様な音を聞き分けるフィジカルAIの耳

三菱電機が、米国現地法人のMitsubishi Electric Research Laboratoriesと共同で開発した「タスク汎用音源分離技術（TUSS）」は、マイクで収音した混合音から目的の音を分離して抽出する技術。2026年のCEATECにおける「CEATEC AWARD 2026」の総務大臣賞を受賞した。

製造現場や公共空間では機械音や人の声が周囲のノイズに埋もれやすく、特定の音を拾い出すのが難しい。従来の技術では分離対象や用途ごとに個別の音源分離モデルを開発する必要があった。それに対し同技術は、取り出したい音の種類をプロンプトで指示することで、複数話者の分離や音声強調、環境音の抽出など複数の処理を単一のAIモデルで実現。必要な音を分けて取り出すことができる。

画像センサによる画像や映像中心だったフィジカルAIのセンシングに、音の聴覚情報を加えることで異常検知や音声認識、音声操作、現場記録の精度向上が可能。ロボットや監視機器への実装を見据え、フィジカルAIシステムの安定性や信頼性の向上、高精度化に貢献する。



https://www.mitsubishielectric.co.jp/ai/products-tech/ceatec-award2026/

アドバンテック

AIコンピュータ「MIC－742－ATロボティクス開発キット」

NVIDIA Jetson ThorとHoloscan搭載



アドバンテックの「MIC－742－AT ロボティクス開発キット」は、NVIDIA Jetson Thorモジュールを搭載し、NVIDIA Holoscanプラットフォームに対応したAIコンピュータ。次世代のロボティクスやフィジカルAIアプリケーション向けに設計され、リアルタイムでの推論と超低遅延のセンサ処理をエッジ側で実現し、「見る・理解する・行動する」能力を発揮する。

NVIDIA Jetson Thorモジュールを搭載し、最大2070 FP4 TFLOPSのAI性能と128GBの高帯域幅LPDDR5Xメモリを持ちながら、システム全体の消費電力は150Wに抑制。動作温度範囲は－10～60° Cと広く、省スペース環境にも対応可能なコンパクトな筐体となっている。

またNVIDIA HoloscanプラットフォームとNVIDIA GPUDirect RDMAを採用し、ステレオカメラ、LiDAR、レーダ、超音波、IMUなどのセンサデータをCPUを介さずに直接GPUメモリへストリーミングでき、低遅延なデータ処理を実現。AIによる推論やリアルタイムの意思決定をより高速に実行でき、ヒューマノイドロボット、自律走行搬送ロボット（AMR）、手術支援ロボットなど、高性能なエッジAIアプリケーションに最適なソリューションとなっている。

https://www.advantech.com/ja-jp/resources/news/robotics-development-kit-with-nvidia-jetson-thor-holoscan

IDEC

安全自律走行ホイール「Safety Wheel Drive」

駆動制御と安全系システムを集約



IDECの「Safety Wheel Drive」は、自律走行に必要なモーション制御と安全系システムを1つのデバイスに統合した自動搬送車両向けオールインワンホイールドライブ。

AGVやAMRに取り付けるだけで簡単にシステムを構築でき、開発時間を約50％削減。さらに、少ないコンポーネンツでISO3691－4に適合したAGV・AMRを構築し、コストも大幅に低減できる。

国際安全規格ISO 3691－4で求められる安全モーション監視機能を搭載し、人と共存する環境でも安心して使用できる。ホイール付きは、垂直荷重がSWD 125の1軸で250kgまで耐えるため、搬送荷重500kgを超えるAGV・AMRの設計が可能となっている。

Assist Wheel Driveは、堅牢性と防水性を備えたホイール筐体内に、モータやドライバ、ギア、バッテリ、制御基板を全て内蔵した、電動アシスト台車用のオールインワンのホイールドライブ。既存の台車に取り付けるだけで電動アシスト化でき、重量搬送の作業負担を軽減する。ワイヤレスタイプと省配線タイプがあり、産業や医療、食品、屋外などの幅広い用途に対応する。

https://www.idec.com/ja-jp/mobility-solutions/motorization-for-automation

Molex（モレックス）

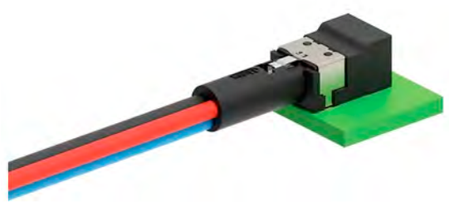
ヒューマノイド向け超小型ハイブリッドコネクタ「MiniMix」

電力と信号を1つに統合

Molexの「MiniMix」は、ヒューマノイドロボットや自律走行搬送ロボット（AMR）向けに、電力と信号を1つに統合したハイブリッドコネクタ。

15.0Aの電力供給と1Gbpsの1000BASE－T1高速イーサネット通信を、単一の超コンパクトなインターフェースに集約したコネクタ。最小5.65㎜の配線プロファイルを備え、従来の接続方式と比較して配線領域を最大50％削減。手首や肘、膝といったスペースに制約のあるロボットの多軸関節部やアクチュエータ内への取り付けを容易にする。

終端処理済みのケーブルアセンブリーを使用でき、手作業による配線や端子のはんだ付けが不要。組み立て工数の削減と障害リスクの低減を実現する。嵌合方向はストレートとライトアングルをそろえ、内部スペースの有効活用とケーブルの応力軽減に対応。耐振性を備えた堅牢な構造により、連続動作時の信頼性も確保する。



https://www.molex.com/ja-jp/news/molex-introduces-minimix-hybrid-power-and-signal-connectors

ニコン

小型軽量ロボットビジョンシステム

ロボットアームの動体視力・頭脳担当



ニコンの「ロボットビジョンシステム」は、人の目で行っていたばら積みピッキングや組み立て作業などの工程を自動化する小型軽量のビジョンシステム。

センサ（カメラ）とエンジン（コントローラ）で構成され、ロボットアームの動体視力・頭脳として機能し、ロボットアームの高速・柔軟な動作を実現。カメラ製品の開発で培った高速画像処理により、瞬時にワークの状況を判断して動作することができ、コンベヤ等の搬送機器やエンコーダとの同期作業が要らず、箱内の部品の位置と姿勢を認識して取り出すばら積みピッキングや、動いている対象に柔軟に追従するビジョントラッキングに最適。

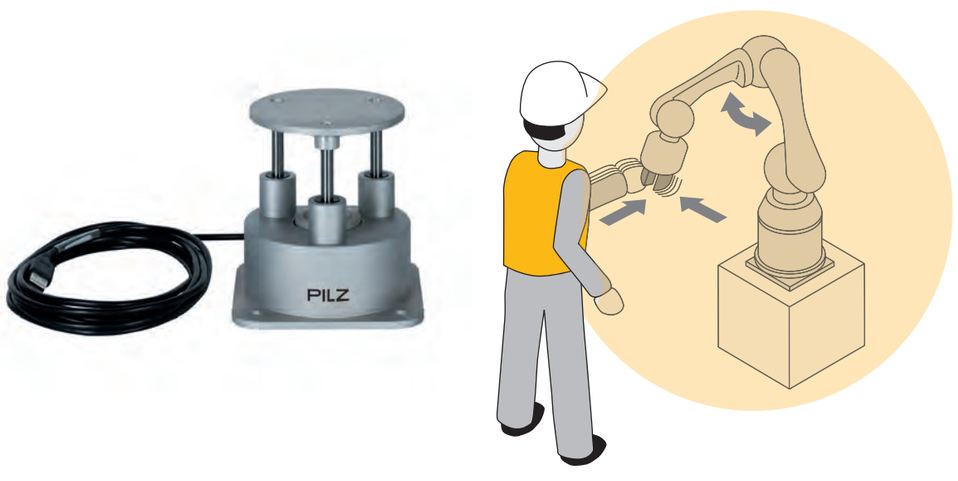
2Dと3Dの2種類のセンサと内蔵LED照明を備え、外乱光や透明体、光沢部品など多様なワークを高精度に認識。ワークを配置する間に次の物体認識を並行して行う先行処理機能や、周辺環境のCADモデルから干渉しない経路を自動生成する機能によってチョコ停も削減。また、つかんだワークの位置ずれを補正して組み付けまで1台で完結でき、コンベヤや自律走行搬送ロボット（AMR）上を移動するワークへエンコーダレスでリアルタイムに追従可能。設定の簡易化と自動化により単純なワークであれば20分で品種追加が可能となっている。

https://ngpd.nikon.com/vision-robotics/

人とロボットがもっと安心して働ける世界へ。
人とロボットの協働のための衝突測定セットPRMS

PRMS(Pilz Robot Measurement System)はISO 10218-2:2025の仕様に準拠した
安全で規格に適合する人とロボットの協働アプリケーションを実現

PILZ
THE SPIRIT OF SAFETY



PRSMは安全なロボットアプリケーションの構築をサポート
☑ 規格に準拠する力と圧力の測定
☑ 正確な妥当性確認
☑ 実用的なアプリケーション
☑ 標準化された測定手順
☑ 作業場の現実的な評価
☑ 使いやすい小型測定装置
☑ ソフトウェア－評価、視覚化、資料作成が簡単

PRMSの詳しい詳細は、QRコードのページを御覧下さい→

■お問い合わせ
ピルツジャパン株式会社
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-17-5
TEL 045-471-2281　e-mail: info@pilz.co.jp











西日本最大規模のロボット展示会「RoboNext2026」

12月2日から4日までインテックス大阪で開催

西日本最大規模のロボット展示会「RoboNext2026」（主催：日本ロボット工業会、日刊工業新聞社）が、12月2日から4日までインテックス大阪で開催される。「ロボットをもっと身近に、そして未来（あす）へ。」をテーマに掲げ、商談や技術展示に加え、人手不足や労働力不足、地域課題など日本社会が直面する課題に対し、ロボットとAIがどのような解決策を提示できるのかを来場者とともに考える場の創出を目指す。

会場内では、国内外から318社・団体、1026小間が出展してブースを展開するほか、人とロボットが創り出す未来像を紹介する企画展示「Robo Next Future ートモニツクル、ミライノカタチー」を実施する。また実演展示「外食産業の人手不足を助ける！～うどん提供ロボット、下膳ロボットが働きます！」では、ロボットがうどんをゆで、湯切りし、だしを注ぐ一連の動作や、食後の食器の種類別自動仕分けを実演し、数量限定で試食も提供。さらに懸賞金事業「NEDO Challenge」や、ロボット基盤モデルの研究開発に取り組む事業者によるミニセミナーと展示も行われる。



メインステージでは、「RoboNext フォーラム 2026」や「RINGプロジェクト全国フォーラム」をはじめ、生成AIの次なる潮流である「フィジカルAI」や国産ヒューマノイドロボットの量産、伝統産業の技能伝承、国際標準化などをテーマにした講演・フォーラムを連日開催する。

パナソニックグループ　(B-76)

ロボットの導入から運用･保守まで社会実装支える技術群



パナソニックグループは、グループ各部門の技術を結集し、ロボットの導入から運用・保守までを支える幅広いソリューションを実機やデモンストレーションを交えて紹介する。

主な展示内容は、自動配送ロボット「ハコボ」、ロボット制御プラットフォーム「Robo Sync」、自律移動ソフトウエアパッケージ「@mobi」、フリート管理・遠隔運用ソリューション「X－Area」など。

さらに、安全制御・評価技術や、生成AIを活用したロボットアプリケーションの自動生成といった研究開発の取り組みも披露し、ロボットの社会実装と現場活用を支援する。

ブース番号はB－76（Next Technologies エリア）。

安川電機　(C-47)

「AIロボットの〝実践〟と〝進化〟、そしてその先にある〝未来〟」



安川電機は、「AIロボットの〝実践〟と〝進化〟、そしてその先にある〝未来〟」をテーマに出展する。

AIの進化により、現場の状況を認識・判断して自律的に動くロボットへの期待が高まる中、ブースでは、長年培ったメカトロニクス技術とデータ活用の知見を基盤に、人手不足や技能継承といった製造現場の課題を解決するAIロボティクスとフィジカルAIの新たな価値を提案する。

また、12月3日13時半からB－10会場でセミナー「フィジカルAI時代の勝ち方 ～社会実装を加速するエコシステム～」を実施する。

フィジカルAIの社会実装を加速するためのオープンプラットフォームとエコシステムの重要性、パートナーとの共創の考え方について解説する。ブース番号はC－47（Next Technologies エリア）。

ワゴジャパン　(C-31)

「つなぐ力で自動化を加速する」最新ソリューション提案



ワゴジャパンは、「Connect to Success ～つなぐ力で自動化を加速する～」をテーマに最新ソリューションを紹介する。

人手不足や生産性向上への対応が急がれ、ロボットシステムには高い柔軟性や省配線化、短納期での立ち上げが求められている中、ブースでは、制御盤の省スペース化や装置・設備の小型化、配線工数の削減、IoTデータ活用を実現する最新ソリューションを実機展示やデモンストレーションで紹介する。70年以上の歴史を持つ、スプリング接続のパイオニアとしての技術と経験を生かし、設計から立ち上げ、運用までを一貫して支えるトータルソリューションを提案する。ブースは、泉州電業（C－31）ブースの一角。展示エリアはNext Technologies エリア。

ミスミ　(B-61)

低価格協働ロボットやヒューマノイド部品を展示



ミスミは、低価格の協働ロボットやヒューマノイド向け部品を出展する。

ブースでは、70万円台からの低価格協働ロボット「FAIRINO」と周辺機器を同社製品でそろえた装置を展示。

現場のピック＆プレース工程を再現し、低コストかつ手軽に立ち上げられる利便性を実機で紹介する。

また、ヒューマノイドロボット用部品として新商品の関節アクチュエータ（QDD）の実物を展示する。

肩から足首まで関節ごとに低価格なラインアップをそろえており、来場者が実際に手に取って体感できる。

ブース番号はB－61（Next Technologies エリア）。

IDEC　(B-46)

「ロボットの未来に安全は追いついているか」



IDECは、「ロボットの未来に安全は追いついているか」をテーマに、人と機械が共に働く現場の課題に対し、安全性と生産性を向上させるソリューションを紹介する。

AIやロボット、AMRの活用が加速する中、安全性と生産性の両立に向けたソリューションを実機デモや導入事例とともに提案する。AGVやAMRの安全運用を支える開発キット「SWD Build KIT」や「1A2A形 3Dミリ波レーダセンサ」、重量物搬送を支援する「アシストホイールドライブ（AWD）」を展示する。

さらに、事故リスクを減らす「非常停止アシストシステム」や、自動化設備のモバイル操作を安全かつ柔軟に実現する「HT4P形 セーフティコマンダ」も紹介し、人と機械が共存する新しい現場づくりに貢献する。

ブース番号は6号館BホールB－46。

IAI　(C-48)

電動化とモニタリングで「データが取れる設備」提案



IAIは、電動化とモニタリングによる「データが取れる設備」をテーマに出展する。

AIやDX推進の前提となる、設備動作の見える化を提案し、異常の兆候検知や品質の再現性向上につながる実機デモを披露する。

主な展示品は、本体幅1cm×1cmで業界最小サイズの電動シリンダー「ミクロシリンダー」や「エレシリンダー」、設備の状態監視とデータの自動バックアップを行う「スマートウェブユニット」など。

さらに、独自の送りねじとナット構造によるパレット循環で低コスト化を実現した「循環式組み立て装置」も展示する。

全軸の負荷状況を監視し、故障による停止を防ぐ「計画保全」のモニタ画面を実演する。

CKD　(A-29)

「組み立てラインの『困った』を実機とデジタルツインで解決」



CKDは、「組み立てラインの『困った』を実機とデジタルツインで解決」をテーマに出展する。ブース番号は6号館 A－29。

出展デモ機では、ロボットとFA機器を組み合わせ、ねじ締めや小物部品・Oリングの組み付け、外観検査など、従来は自動化が難しかった工程の実演を行う。電動アクチュエータ「EJSG・FLCRシリーズ」や多軸コントローラ「EcmGシリーズ」、オートツールチェンジャー「KHBCシリーズ」、アブソデックス「AX6000Mシリーズ」など多彩なハンドリング関連機器を連携させ、高精度かつ安定した搬送・位置決めを披露する。

また、iCADとのコラボ出展により、設計・シミュレーションから設備構築までを見据えたソリューションを紹介し、人手不足や品質向上の課題解決を支援する。



ADVANTECH
アドバンテック株式会社　https://www.advantech.co.jp
［東京本社］　TEL：03-6802-1021　FAX：03-6802-1022　［直方事業所］ TEL：0949-22-2811 FAX：0949-22-2836
［大阪支店］　TEL：06-6267-1887　FAX：06-6267-1886　［名古屋支店］TEL：052-291-4860　FAX：052-291-4861
Edge Computing &
AI-Powered WISE Solutions

PHOENIX CONTACT
Empowering the All Electric Society

電気設計から製造までデータがつながる
EPLAN
Efficient Engineering is when a PLAN becomes EPLAN.

Sansei
サンセイには答えがある。
株式会社サンセイテクノス
https://www.sanseitechnos.co.jp/

Machine Evolution Partner
Speedy. Simple. Suitable for All.
Panasonic INDUSTRY　パナソニック インダストリー株式会社

MEITENS
見込顧客の創出
BtoB企業専門のマーケティング支援
株式会社メイテンス

工場新設・増設、設備投資情報

工場・設備投資記事一覧はこちら→https://www.automation-news.jp/category/factory/

北海道・東北

■日本ピージーエム、秋田県秋田市に白金族リサイクルの新拠点を開設

日本ピージーエムは、秋田県秋田市に前処理工程の増設および小ロット対応設備を備えた新拠点を開設する。

米国での集荷量拡大に伴い前処理を要するメタルハニカム品の前処理能力増強が必要となったほか、国内における自動車解体台数の減少に伴うセラミックハニカム品の小ロット化ニーズに対応するため、急増する海外需要への対応と国内市場の変化への適合を図り、白金族金属の回収事業を強化する。新拠点の敷地面積は1752㎡、建物面積は1160㎡。投資総額は1億円。

関東・甲信越

■GSユアサ、茨城県茨城町に定置用蓄電システムの製造工場を開設

GSユアサは、茨城県東茨城郡茨城町に定置用蓄電システムの製造工場を開設する。2028年10月の供給開始に向けて整備を進めていく。

定置用蓄電システムは、再生可能エネルギーの主力電源化に伴う電力系統の安定化や、自家消費、ピークカットへの活用、災害時のレジリエンス強化を目的に需要が増加しており、同社はリチウムイオン電池セルから制御システムまでを国内で生産する。工場の建屋面積は4万4394㎡。生産能力は年間2GWh。

■日本色材工業研究所、長野県小諸市に新たな生産拠点「小諸工場」を開設

日本色材工業研究所は、長野県小諸市に新たな生産拠点となる小諸工場を開設し開所式を執り行った。

国内3箇所目の工場として主にマスカラやアイシャドーなどのメイクアップ化粧品の充填、包装、仕上げ工程を担う。働く人と地域にやさしい工場として地域社会とともに持持続可能な成長を目指し業務体制を強化する。

新工場の土地面積は4927㎡、建物面積は1424㎡。

東海・北陸

■ヤマザキマザック、愛知県大口町に研究開発拠点「Mazak Innovation Hub」建設

ヤマザキマザックは、愛知県丹羽郡大口町に研究開発拠点「Mazak Innovation Hub」を2027年8月に開設する。

同拠点は研究、設計、試作の機能を集約し、多様な人材や技術をつなぐハブとして次世代技術の研究と革新的な製品開発を効率的に推進する。開放的なオフィスレイアウトを採用し部門を超えたコミュニケーションと協働を促進する。工作機械の試作や評価を行うエリアにオフィスを隣接配置し、設計から評価までシームレスに連携できる環境を整える。さらに社外パートナーとの技術交流や共同開発を行う専用エリアを設け、オープンイノベーションの推進を図る。

Fukunishi
人・技術・情報の
架け橋となり、
最適解で「福」あふれる
未来をつくる。
福西電機株式会社

近畿

■三ツ星ベルト、兵庫県神戸市に新神戸本社と新技術棟を建設

三ツ星ベルトは、神戸本社と事業所の再整備計画を進める。中核プロジェクトとして新神戸本社の建設に



着手する。新本社棟は社員が集いコミュニケーションや部門間の連携を促進することで、業務効率の向上と迅速な意思決定を支える拠点とする。

新本社棟の構造は地上4階建て。建築面積は約1530㎡、延床面積は約5170㎡。2029年9月の完成を予定する。新技術棟はS造地上2階建てで、建築面積は約500㎡、延床面積は約1000㎡。27年8月の完成を予定する。総投資金額は約50億円を見込む。

中国・四国

■JFEスチール、広島県福山市で国内初のスタンプチャージ式大型コークス炉を新設

JFEスチールは、西日本製鉄所（福山地区）で第6コークス炉A団の新設工事を完了し、性能試験を経て稼働を開始した。

新設したコークス炉は、原料となる粉末の石炭を予め圧密成型し、炉の側方から装炭押出機で装入するスタンプチャージ式を採用。大型のコークス炉へのスタンプチャージ式採用は国内初となる。

スタンプチャージ式の採用により、従来のトップチャージ式に比べ生産効率向上と環境に配慮した操業を実現する。また圧密成型によるコークスの品質改善効果により、操業コストを低減できる。設備工事の投資金額は約450億円。第6コークス炉A団の門数は52門で、生産能力は年間約42万㌧となる。

■北四国グラビア印刷、香川県三豊市に新工場「TAKASE FIELD」が竣工

北四国グラビア印刷は、香川県三豊市で建設を進めていた新工場「TAKASE FIELD」を竣工し、稼働を開始した。

既存工場の製造工程の一部を移管し、主に製品の仕上げや梱包工程において自動化と省力化を推進する。重量物の梱包作業を機械化することで作業負担を軽減し、生産性向上と安定した生産体制の構築を目指す。併せて工場内の温湿度や電力使用量を一元管理するシステムを導入し、省エネルギー化にも取り組む。

新工場の構造は地上2階建てで、敷地面積は6910㎡、延床面積は5148㎡。

九州・沖縄

■鹿児島精機、鹿児島県霧島市で半導体関連や宇宙分野向けの生産設備を増設

鹿児島精機は、鹿児島県霧島市の本社工場の既存敷地内において生産設備の増設を行う。

同社は創業以来培ってきた精密切削加工技術を基盤とし、半導体製造装置や産業用機械、医療機器などに使用される精密部品の製造を手掛けている。今回の設備投資は、今後の半導体関連分野における受注拡大と宇宙関連分野への事業展開に伴い、生産能力の増強を図る目的で計画された。

投資予定額は約2億8000万円。着工は2026年8月、操業開始は27年2月を予定する。

■五洋食品産業、佐賀県唐津市で「唐津新工場」が竣工　冷凍ケーキの生産能力拡大

五洋食品産業は、佐賀県唐津市の石志工業団地に建設を進めていた唐津新工場を竣工した。

冷凍ケーキ市場の拡大や需要増加を背景に、中長期





的な供給体制の強化と今後10年を見据えた成長基盤の確立を目的に建設した。糸島工場との連携によるシナジー創出を図るとともに、生産の自動化や省人化を推進し、生産性向上と作業負荷の軽減、安全性の向上を実現する。

新工場の所在地は佐賀県唐津市石志工業団地。敷地面積は約2万4000㎡、建物面積は約3000㎡。2026年9月に稼働を開始する。

■京セラ、長崎県諫早市に新たな生産拠点「長崎諫早工場」が竣工

京セラは、長崎県諫早市に半導体関連事業の主要生産拠点の一つとなる長崎諫早工場を開設した。

AIデータセンター市場の拡大やADASの高度化、EVの普及などを背景に高まる旺盛な部品需要に対応し、半導体製造装置向けファインセラミック部品や各種電子機器に搭載される半導体パッケージなどを生産する。順次生産設備を導入し、2027年度春に本格稼働を開始する予定とする。

新工場の敷地面積は約15万4000㎡。主な建屋となる第1工場は鉄骨6階建てで、建築面積は1万4959㎡、延床面積は8万799㎡。28年度までの投資金額は約680億円を見込む。30年度以降に年間250億円の生産計画を掲げる。

■ハイレックスアクト、福岡県京都郡みやこ町でドアモジュールの量産に向け設備投資

ハイレックスアクトは、福岡県京都郡みやこ町の九州工場で、ドアモジュール製品の国内初受注に伴う量産体制構築を目的とした設備投資を実施する。

国内自動車メーカーにおける工程効率化や生産性向上に伴うモジュール化ニーズの高まりを受け、ドアモジュール製品を国内で初受注した。今後の受注拡大を見据え、九州工場で建屋の増築と生産設備の導入を行い、樹脂プレートも内製する。スペイン工場で利用していた大型樹脂成型機も移設する。

投資総額は約12億円。2028年12月の稼働開始を予定する。

■ソニーセミコン、大分県大分市の大分工場で国内最大規模の太陽光発電設備を稼働

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリングは、大分県大分市の大分テクノロジーセンターS棟屋上に太陽光発電設備を設置し稼働を開始した。

本設備は発電容量約3.0MW、年間発電量約3400MWhを見込み、同社の国内半導体製造拠点としては最大規模となる。発電した電力は大分テクノロジーセンター敷地内で冷凍機などのファシリティ設備運転に活用する。これにより年間で約1600㌧の温室効果ガス（GHG）排出量削減を見込む。

設置面積は約1万3000㎡で、太陽光パネル5052枚を設置した。導入形式はPPAモデルを採用する。

海外

■村田製作所、タイでEMI除去フィルタの新生産棟を建設　投資金額は約62億円

村田製作所の生産子会社であるMurata Electronics (Thailand) ,Ltd.は、敷地内に新たな生産棟を建設す



る。投資額は約62億円となる。

電子機器の高機能化や複雑化に伴い、電磁ノイズ対策に用いられるEMI除去フィルタの需要が増加している。新生産棟の建設により生産能力を拡充し、需要増加への対応と安定供給体制の強化を図る。

新生産棟は鉄骨造4階建てで、建築面積は2834㎡、延床面積は1万797㎡。2026年9月に着工し、27年11月の竣工を予定する。

■シンフォニアマイクロテック、ベトナムで小型モータの生産体制強化に向け「第2工場」竣工

シンフォニアマイクロテックの100%子会社であるシンフォニアマイクロテック（ベトナム）は、ベトナムで建設を進めていた第2工場を竣工した。小型モータの生産能力拡充を目的とし、現在の最大生産能力である月産200万台から今後の追加設備導入を進めることで最大月産400万台へと大幅に増強する。

新工場は2階建てで、敷地面積は2050㎡、延床面積は5009㎡となる。

Make Network Easy
HMS Networksなら、産業用ネットワークの実装からIIoTの導入を「Easy」に実現



組込み
インターフェース
安全通信
ゲートウェイ
リモートアクセス
OTセキュリティ
イーサネットスイッチ
ワイヤレス
ネットワーク診断
BA用インターフェース

Anybus Ewon N-Tron RedLion Intesis
HMS Hardware Meets Software™